

もう一つの大会に参加して

横手ロータリークラブ
会長エレクト 伊藤 孝憲

今、カナダではバンクーバー冬季五輪大会が真っ最中であるが、我がクラブではもう一つの大会が去る2月20日(日)午後1時30分から『葵』で開会されました。

大会にエントリーしたのは、次の選手の皆さんです。抽選順に、半田茂志、石川耿一、小川陽市、榮原修平、伊藤孝憲、和泉徹郎、武茂広行、渡部尚男、石橋俊一、工藤義和、山川義扶、高橋悦弥、伊藤 毅、鶴田徹二、藤井吉郎の各会員とゲスト参加の加賀清太郎氏（横手南RC）です。山川審判長の諸注意の後、四卓に分かれ三回戦の熱戦が四時間にわたって展開されました。

大会終了後シャイニーパレスで行われた表彰式と懇親会の席上では、前年度優勝者の和泉(徹)会員より優勝トロフィーの返還があり、今年度は次の方々が表彰されました。

優勝 武茂会員、準優勝 加賀氏、3位 石橋会員、4位 榮原会員、5位 工藤会員、10位 伊藤(毅)会員、ピンフー賞 藤井会員、ブービー賞 渡部(尚)会員、ブービーメーカー賞 伊藤(孝)でした。

大会を振り返って見ますと、会員が減少傾向にある中でゲストを含めて16名のエントリーができたことは大会運営上良かったと思うし、懇親会も二卓に分散されてはいたもののそれなりに例会時とは異なった雰囲気ではなかったかなと思います。それにつけても、筆者は年1回の大会にのみエントリーしておりますが、いきなり一回戦で眼鏡をかけずフライング(チョンボ)をしてしまい、それも一度ならず二度もしてしまう情けなさは、大会参加のほろ苦い思い出として我が心の隅の記録簿に記録されることとなってしまいました。

しかし、ボランティア精神が旺盛なことであり、オリンピック提唱者のクーベルタン男爵の『勝つことではなく、参加することに意義あり』の言葉をこの機に改めてかみしめてみるのもいいことなのかもしれない。因みに、ブービーメーカー賞の賞品は大変すばらしいものでした。家族で大変おいしくいただきせてもらいました。



『 企業訪問 — 株式会社 NTT 東日本秋田県南営業所 』

横手ロータリークラブ
会長エレクト 伊藤 孝憲

この2月に入り、廻り梵天（2月14日）以来降雪がなく、比較的好天に恵まれた去る24日、当クラブの職業奉仕委員会（高橋一弘理事・委員長）主催の職場訪問が実施されました。当日は昼の例会もありましたが、午後4時からの訪問に参加した会員は次の13名でした。藤井吉郎、半田茂志、平田洸一、和泉徹郎、伊藤孝憲、加賀谷洋一、小坂良一、近 正信、三浦洋一、高橋一弘、鶴田徹二、若林幸夫、それに秋田県南営業所所長の進藤由秀の会員諸氏でした。

IT プラザで入館手続きを済ませた後、進藤所長の歓迎挨拶に続き関係部署の係員から説明を受け、約1時間の見学が実施されました。地下ケーブルの埋設状況、変電室、交換室、屋上のマイクロウェーブのアンテナ等説明を受けながら見学しましたが、中でも停電を含む災害時の電源確保のための工夫がバッテリー、自家発電装置等を駆使して二重、三重に取られているのにはびっくりさせられました。また、嘗ては200名近い電話交換手による接続作業がコンピューター等の機械及び技術の進歩によって自動化されている様をみるにつけ、改めてコンピュータシステムの近代化の偉大さを再認識させられました。聞くところによれば、県南営業所の業務カバーエリアは「協和」地区を除く県南地区を担当しているとのこと、30数年前の認識とはかなり違って感強く持ったところでした。この日、屋上からみる城下町の春景色が、そして西の空にそびえる秀峰鳥海を茜色に染めた景色はまたとない安らぎももたらす一服の絵でした。

訪問終了後、すぐ隣の『平利』で懇親会が開催され、会員間の親睦が深まり、この日は二次会でも盛り上がり久々の美酒爛漫（『平利』でのお酒は「天壽」）でした。

